平成14年度「翔生塾」を終えて

研修委員会　委員長　杉本　定幸

梅雨真っ盛りの7月4日から5日にかけて、第1部として比叡山は西塔（さいとう）にある『居士林』と言う、唯一広く一般の人々に開放された修行道場で「日常の生活を離れ、自分自身に向き合う時間を持って頂き」、山の豊かな自然と清らかな空気のなかで体験する仏道修行の場に踏み込んでいただきました。

志のある全国各地のYEGメンバーがより多く参加して頂き無事終了できました。これも単に皆様のお力添えがあった事を深く感謝申し上げます。

さて、本年は「立ち止まるな!そして胸を張れ!YEG's be ambitious!」の14年度商青連スローガンのもと、「立ち止まらず、胸を張って」の如く、道を開拓する為に必要な知恵と勇気と行動力を養う場を求める事が必要ではないかと思い今回の研修を企画し、その中で最終的に強靭な精神力を養い30,000人の為の1人となれる“将の将たる人間”として、志を高め人間の持力の向上を目的として開催いたしました。

写経に取り組む参加者

第1日目は、研修と修行の違いを悟され、普段何気なく行っている行動が如何にダメであるかを思い知らされ、全ての行いは行（ぎょう）であるため、無駄なお喋りは勿論出来ず、また休憩も無く分刻みの生活を味わい、その中で一環していたのは、全ての行を起す時は、手を合わせる事から始まり手を合わせて終わる。移動するときも合掌からはじまり、合掌したままでの歩行、また何かを行う前には般若心経のお経を唱えました。

食事の時も一斉の音を立ててはいけない、またお茶は飲むものでなく最後に器に少しずつ配り、タクアンで器を綺麗にしてそのお茶を飲み干して食事を終了する。無論その間は正座で全員が食事を終えるまで足を崩す事はもちろん、話も出来ません。般若心経を唱えた後、「いただきます」「ごちそうさまでした」と言った日ごろ何となく言っている言葉も、食材だけでなく料理を作っていただいた方への感謝を、心から示す言葉であることをご教授いただきました。それと如何に普段の食事が楽である事も痛感しました。

一汁三菜の食事をいただく

赤松　光真所長の講話

翌日は5時に起床、また隊列を組んでの移動坐禅止観、浄土院参拝、森林浴を兼ねたウォーキングの後ジョギングが始まり、清掃、朝食、写経と続き所長である赤松氏よりお話しを頂き、人とはどうあるべきかを語って頂きました（当初打ち合わせではかなり辛口の事を仰っておられたので内心ヒヤヒヤしておりましたが）。

その後昼食をいただき、退所式を済ませ居士林を出発し、第2部研修先である烏丸京都ホテルに移動し、大脇会長よりご挨拶を頂き、講演会としてPHP総合研究所副社長江口克彦氏に「松下幸之助に学ぶ商売人の心」をご講演いただきました。みなさんには、居士林での汗をそのままで講演を聞いて頂きました。

講演の内容は、21世紀の時流（～2025）を見つめてと言うことで、現在高度情報化で高度技術化が進み、グローバル化（国際化）の時代になり価値観が問われる時代である。少子高齢化により労働力も多様化してくる超高速・超複雑な社会に入っている。この世の中で経営者の選択として、努力をする必要があるということでした。

起業家魂を学ぶ

経営者の選択（努力をする）とは…
変化を読み取る経営者、知恵を出す経営者（+α）、Speedのある経営者、「なあ」は資格無し、即断即決即行、危機感を持つ経営者、「経営の明日が分かる」信念を持つ経営者、経営の戻り場所を作る、経営理念、信頼される経営者

経営理念とは?何か。何のために会社はあるのか＝世のため人のためなのか、どのようにするのが正しいのかを考える、すなわち哲人経営者となる（思索する経営者、考える経営者）最後に経済は今年から4～5年はこのような状態が続く、その後インフレになるのではとの事で質疑応答に入り終了しました。

赤松所長と大脇会長

第2部終了後引き続き終了式を行い、大脇会長より参加された皆さん一人一人に修了証書を手渡し、懇親会へと移動し、締めとして小田原での全国大会の時の歌「夢はあざやかに」を大合唱して【平成14年度翔生塾】を閉塾といたしました。

参加していただいた50名のみなさん本当にありがとうございました。1泊2日の居士林での行の成果が、今すぐ出る人もいれば何年も掛かって出る人もいらっしゃるとお話されてましたが、今回自分が経験したことが自分の何かを変えるキッカケとなれば、企画いたしました研修委員会一同嬉しい限りです。

最後に一生に一度の体験として、みなさんの単会・企業の研修に一度はご利用してみてください。一度体験すると世界が変わるかもしれませんよ。　　合　掌